

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 23 日現在

機関番号：32809

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370775

研究課題名(和文) 古代地方寺院の造営計画・技術の伝播 伽藍配置を中心に

研究課題名(英文) Propagation techniques of ancient local temple construction plan-the arrangement of buildings within a temple cloister to the core-

研究代表者

三舟 隆之 (MIFUNE, TAKAYUKI)

東京医療保健大学・医療保健学部・教授

研究者番号：20418586

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：日本の古代寺院の伽藍配置については、従来古代の仏教観を表していると言われてきたが、地方寺院の伽藍配置を見ると金堂だけの寺院も多く、定型化していない。朝鮮半島では古代寺院の伽藍配置は定型化した形式で、王権が寺院を造営する技術を把握していたことが判明する。しかし日本では寺院の伽藍配置は多様であり、とくに地方寺院では規格性に欠け、畿内から離れた地域では、地方寺院はさまざまな技術が用いられ、そこに仏教の教義を見出すのは困難であり、畿内寺院の伽藍配置を意識しながらも、地方独自の伽藍配置も採用されている。日本古代の地方寺院は、ある程度規制されず自由なプランで造営されていたと考えられる。

研究成果の概要(英文)：The arrangement of buildings within a temple cloister is not constant, as representing the traditional ancient Buddhism Temple on the ancient temples of Japan, pointed out that many temple as the Central Hall in the region. On the Korean peninsula is the ancient temple site layout in a stylized form, can be had to figure out the technology to built the temple the royal prerogative. But temple site layout is different in Japan and in the especially Temple away from standards in wanting the kinai district, a variety of technologies employed local temples are considered to be local to your own plan is employed. Japan ancient local temple does not regulate some thought had been built on the free plan.

研究分野：日本古代史

キーワード：地方寺院 伽藍配置 造営技術

1. 研究開始当初の背景

日本古代寺院の伽藍配置研究については、石田茂作氏によって畿内の古代寺院跡を中心にその伽藍配置の系譜が明らかになった(『仏教考古学論攷』1978年)。さらに戦後、全国的に古代寺院跡の調査例が増加したが、しかし古代寺院跡の研究については出土した瓦の瓦当文様や瓦の製作技法が主流となり、現在も瓦中心に研究が進められていると言っても過言ではない。

また伽藍配置研究も最近では森郁夫氏が石田氏と同様に、寺院の伽藍配置が古代の仏教観を反映していることを指摘し(『日本古代寺院造営の研究』1998年)、菱田哲郎氏も伽藍配置に仏教の教義との密接な関係を認め、その伝播過程が当時の仏教奨励策と重なることから、国家仏教の護国思想による仏教伝播という立場から論じられているが(『考古学研究』52-3 2005年)、具体的には検証されていない。

近年韓国では、相次いで古代寺院跡の調査が進み、新たに王興寺跡や弥勒寺跡などの調査が行われて伽藍配置が次々に明らかになった。韓国の古代寺院では、百濟・定林寺跡や軍守里廢寺・陵山里廢寺・王興寺跡などの調査から伽藍配置の系譜をたどることができ、そこから百濟地域の古代寺院は、百濟王権が造寺技術を掌握し、定型化した瓦当文様と伽藍配置によって、寺院の造営を行っていたことが明らかになりつつある。新羅地域の古代寺院についても、新羅が半島を統一する前後から新羅独自の双塔式の伽藍配置を採用し、その系譜が新羅では継続されていることが明らかになりつつある。

その結果、韓国では出土瓦の系譜研究だけでなく、寺院の伽藍配置研究も合わせて明らかになり、古代寺院の造寺計画・技術が飛躍的に解明されてきている。

しかし日本では、近年発掘調査された吉備池廢寺が百濟大寺跡であることが明らかになり、伽藍配置も法隆寺に先行する形態を取ることが明らかになっても、その点については十分に研究されておらず、最近の日本における古代寺院の伽藍配置研究は停滞している。韓国の古代寺院の伽藍配置が明らかになりつつある現在、日本においても造寺計画・技術面から伽藍配置研究を再検討すべき時期に来ていると思われ、とくに地方寺院の伽藍配置研究は、遅れているといわざるを得ない。

2. 研究の目的

地方寺院の造営計画・技術がどのように伝わり、当該地域でなぜ特定の伽藍配置が採用されたのかを明らかにするのが、本研究の目的である。

日本の地方寺院の伽藍配置は多様であり、地方への伽藍配置の伝播経路を明らかにすることが、今後中国・韓国の古代寺院跡との比較研究を行う際、重要な研究となると思わ

れる。

研究代表者は『日本古代の王権と寺院』(2013年)で、王権と地方豪族の政治的な関係から造寺活動が行われたことを明らかにしている。伽藍配置の採用を国家仏教の教理の影響のみに求めて解決しようという方法は、誤った解釈を生み出す危険性があり、そのためにも、本研究はまず地方寺院の伽藍配置について類型化を行い、新たに造営計画・技術の採用という観点から検討する

3. 研究の方法

近年、韓国における古代寺院跡の伽藍配置の系譜が明らかになり類型化されているので、まず韓国における古代寺院の伽藍配置について、扶余・慶州地域を中心として伽藍配置がどのように成立し展開するのか調査して、日本の伽藍配置との比較を行う。

次に日本においては、まず畿内の古代寺院の伽藍配置の分布を明らかにして類型化を行い、地方寺院の伽藍配置も編年と地域的な特徴を検証し類型化を行う。基礎となる地方寺院のデータベースが出来ていないので、各地域の古代地方寺院については実地調査を行い、合わせて報告書などの文献を入手し、エクセルなどを用いて基礎となるデータを作成する。その上で日本における地方寺院の伽藍配置がどのように分布・展開していくのか、各交通路を中心とする伽藍配置の伝播や景観、時期・地域を加味した伽藍配置のタイプの分布比率を統計処理して明らかにする。

4. 研究成果

韓国の古代寺院の伽藍配置

王興寺跡の伽藍配置は、陵山里寺跡の伽藍配置とはほぼ同一であり、さらに扶余周辺の寺院の多くがこの百濟式の一塔一金堂式伽藍配置を採用しているところからも、これらの寺院の造営技術に共通性が見いだされ、発願者とその造営組織が同一である可能性が高い。定林寺跡や王興寺跡・陵山里寺跡・軍守里廢寺などの伽藍配置の同一性から見ても、造寺に関する技術者集団が王権のもとで掌握されていたものと思われる。百濟においては、とくに寺院造営に関しては隔絶した権力が存在したことが推測され、王権すなわち王族とそれを支える中央貴族層の一部のみが掌握していたと思われる。

新羅においてもその傾向は同じで、皇龍寺・芬皇寺は共に一塔三金堂式であり、その後四天王寺や感恩寺・仏国寺などの二塔一金堂式が続く。

このように朝鮮半島では、王権の寺院の伽藍配置が形式化されており、その造営技術は王権によって掌握されているため、各寺院の伽藍配置には共通性が見出される。

日本における地方寺院の伽藍配置の問題点

日本における古代寺院の伽藍配置は、通説

では高句麗の影響を受けた飛鳥寺の一塔三金堂式に始まり、その後七世紀前半では四天王寺や若草伽藍のような四天王寺式が続き、七世紀後半には塔・金堂が横に並列する法隆寺式・法起寺式伽藍配置が採られて地方に展開し、七世紀末には薬師寺式のような双塔式伽藍配置が採られ、八世紀には東大寺式に展開すると理解されている。

しかし地方寺院の伽藍配置では、金堂のみ存在する単堂式が多く、塔が存在する場合は法隆寺式・法起寺式伽藍配置が見られるが、塔・金堂のみで講堂が存在しない場合も多い。また双塔式伽藍配置でも、金堂の横に塔が並列するものもあり、規格性という点が欠ける。

このように地方寺院の伽藍配置は必ずしも畿内の寺院と共通性があるとは限らず、その点が朝鮮半島の古代寺院と異なっている。

四天王寺式伽藍配置の地方への展開

従来、四天王寺式は塔・金堂・講堂が一直線上に配置され、七世紀前半の伽藍配置とされてきた。

しかし地方寺院の中には、三河・北野廃寺、伊賀・三田廃寺、伊勢・智積廃寺、紀伊・北山廃寺、播磨・多可寺遺跡・下太田廃寺、備中・栢寺廃寺、伯耆・石塚廃寺、伊予・法安寺跡、豊前・椿市廃寺など、七世紀後半に下る寺院がみられる。これらの寺院の軒瓦の形式は川原寺式などがみられ、百済系の素弁軒瓦を中心とする畿内の四天王寺式寺院とは異なる様相である。

従って従来唱えられていたような、四天王寺式・法隆寺式・法起寺式伽藍配置への移行は再検討する余地がある。またこれらの四天王寺式は、当該寺院のみ採用され、周辺地域に展開せずほとんど影響していない。

観世音寺式伽藍配置の問題点

観世音寺式伽藍配置は、大和・川原寺式の中金堂を省略した形で、西金堂が東塔に正対する形で、法隆寺式・法起寺式伽藍配置のような金堂が南面するタイプとは異なる。

この伽藍配置が陸奥・多賀城廃寺・郡山廃寺、筑前・観世音寺跡などの「官寺」にみられることから、このタイプの伽藍配置を採る寺院は「官寺」と見る説もある。しかし、同じ陸奥・夏井廃寺、紀伊・道成寺などは明らかに郡領氏族の「私寺」であり、この伽藍配置の寺院が「官寺」であると断定することは出来ない。

法隆寺式・法起寺式伽藍配置の地方への展開

一般的な地方寺院の伽藍配置は、この法隆寺式・法起寺式伽藍配置で全国に分布するが、塔と金堂の位置関係などの相違が何に基づくものか、不明である。法隆寺式伽藍配置と法起寺式伽藍配置では、畿内では法隆寺式伽藍配置が多いが、地方では法起寺式伽藍配置の方が多い傾向にある。

ただ法隆寺式伽藍配置は、法隆寺ではなく百済大寺跡とされる吉備池廃寺が初現であることから、王権の伽藍配置と意識された可能性はある。また畿内でも葛城周辺の寺院に集中している例もあるので、今後軒丸瓦の形式分類とも関係させて分布の傾向を検討する必要がある。

双塔式伽藍配置の地方への展開

双塔式伽藍配置は大和・薬師寺跡が典型的な例であるが、常陸・新治廃寺や播磨・奥村廃寺、因幡・栢本廃寺、伯耆・上淀廃寺など例を見ると必ずしも薬師寺式の影響ではなく、むしろ法隆寺式・法起寺式伽藍配置の変形であり、地方に行けば行くほど定型的な伽藍配置は崩れていくという例として考えるべきであろう。

地方寺院の伽藍配置の諸問題

本研究で改めて判明したのは、地方寺院の伽藍配置にはさまざまな問題が存在する点である。それを以下に述べたい。

・地方寺院の伽藍配置では、塔・金堂・講堂などが必ずしも備わらず、金堂のみ、または塔・金堂のみという寺院が多い。これは地形的な制約がある場合も有るが、多くは講堂を必要としていない傾向がある。これは經典研究などの教義が必ずしも地方では重視されていないことを示すものであり、地方寺院の伽藍配置から在地仏教の教義を読みとるのは困難であろう。

・寺院の建造物においても、発掘調査の結果を見ると、金堂・塔・講堂などの順に造営されていることが多い。それは法隆寺式・法起寺式伽藍配置の場合、中軸線上に中門が存在するはずであるが、中には金堂の正面に取り付いているものも存在する。このような例は明らかに先に金堂が存在した例であり、伽藍配置の整備には時間差があって整備されている。このような場合、どの時点で伽藍配置を考えていくか、課題である。

まとめ

以上のように日本の地方寺院の伽藍配置を検証すると、朝鮮半島の百済・新羅と異なるのは、地方寺院が百済・新羅では展開しない点と、百済・新羅の定型化した伽藍配置とは異なり、日本では非常に多様化した伽藍配置が採用されている点である。

さらに日本の場合、伽藍造営技術である建物基壇の類例と軒瓦の形式分類の相関性も調査したが、これは明らかな傾向は見いだせなかった。

以上から考察すると、日本では地方寺院の造営にあたっては、画一的な技術が用いられたのではなく、七世紀後半に寺院造営の画期を迎えた時に、さまざまな技術を採用した可能性がある。これは在地側の技術の問題であり、従来いわれてきたような国家側の統制ということは当たらないと思われる。これはさ

らに地方寺院造営に当たって研究が進んでいる瓦研究と、今後付き合わせていかなければならない問題と考える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3 件)

三舟隆之、「若狭国造と古代寺院」、『再論、若狭の古代寺院～遠敷郡の古代寺院、そして興道寺麿寺』美浜町教育委員会、2016、87 - 96

三舟隆之、「影向寺遺跡と古代東国の郡家・寺院」、『史叢』日本大学史学会 2016、71 - 82

三舟隆之、「仏教伝来から出雲への伝播経路 寺院造営技術の伝播」、『出雲古代史研究』26号 出雲古代史研究会 2016、41-55

〔学会発表〕(計 4 件)

三舟隆之、「相模・南武蔵の古代寺院」相模の古代を考える会、2015.1.17、神奈川

三舟隆之、「相模国を創る～古代の役所と寺院」：神奈川県考古学会、2015.2.22、神奈川

三舟隆之、「影向寺遺跡と古代東国の郡家・寺院」日本大学史学会シンポジウム、2014.7.11、東京

三舟隆之、「仏教伝来から出雲への伝播経路 寺院造営技術の伝播」出雲古代史研究会、2015.1.17、島根

〔図書〕(計 1 件)

三舟隆之、「神郡の成立と古代寺院」、加藤謙吉編『日本古代の王権と地方』大和書房 2015、405 - 434 加藤謙吉・篠川賢他 16 名

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

三舟 隆之 (Takayuki Mifune)

東京医療保健大学・医療保健学部・教授

研究者番号：20418586

(2) 研究分担者

なし()

研究者番号：

(3) 連携研究者

なし()

研究者番号：

(4) 研究協力者

なし()